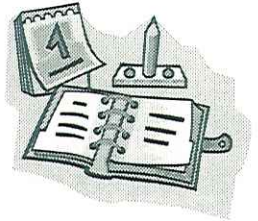




# 今年1年を振り返って!!

## ～ 2008年 VEC関西10大ニュース～



今年も、もう終わりです。昨年より関西VEC10大ニュースを「てんこもり」に記載しています。何年もたって、見てみるとこの10大ニュースが一番簡単でその年に起こったことが理解できます。

読者の皆さんも、自己流「わが社の10大ニュース」や「我が家の・・・」を書いてみたいかがでしょう。

さて、今年を振り返ってみると、大台風や、大地震が関西には起こらなかったことなどありますが、経済は大変でした。サブプライム問題から端を発して10月大幅な円高と、株安が襲い掛かりました。これで来年からの計画が立たなくなり、大企業からベンチャー企業まで計画を見直しです。

まあ、いろいろありましたが、我がVEC は割合平穏でいろいろな行事をこなすことが出来ました。

1. VEC新理事長松村博史氏を迎える。  
新しいVECとして、また新しい理事長の下でベンチャーにとって、いい企画ができるといいですね。  
ゴルフの上手い、論客の濱田前理事長は取締役として、富士電機(株)ホールディングスに就職されました。ご活躍を祈ります。
2. フィンランドのオウル大学とのベンチャー研究会をラウリ教授とアレウ聖子さんをお迎えし開催。  
ご存知ですか? フィンランドは福祉優先の高税金(60%)で有名ですか? 此処三年間、世界競争力ランキング三位以内に入っています。  
携帯電話世界一のノキアなどもフィンランドです。
3. 経済学者 水谷研治氏をお迎えし講演会と、懇親会を開く。  
参加者80名をお迎えし盛大に開きました。  
先生の周りには大きな輪が出来ました。
4. 課外交流会として、酒と歴史の街「伏見」で行いました。  
村上伏見大手筋商店街理事長の案内で春の伏見を満喫しました。  
その後は焼き鳥で一杯。幸せでした。

5. この10月で「てんこもり」発刊 四周年を迎えました。  
読者、執筆者の皆さんご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
  6. ベンチャーキャピタルの皆さんとの交流会開く。  
濱田前理事長に米国のキャピタリスト状況調査の報告をお願いしました。  
今後も、VCとの交流会を続けることが確認されました。
  7. 大阪市のベンチャー支援機関のIAG応募プランの審査委員に本田が就任。  
ベンチャー企業経営者やVCの役員がベンチャーの支援活動を推進します。
  8. 「地下トンネルを掘って、そこに飛行機を飛ばす」というプロジェクトの講演を本田がVEC交流会で行いました。  
たくさんの方が、来られ、今年最後の交流会。盛り上がりました。アルコールが随分なくなりました。
  9. 前関西支部長 榎屋好昭氏 がめでたく喜寿を迎えられました。  
幹部等で小宴を持ちました。飲むのが大好きな面々です。
  10. 日本南京玉すだれ協会・専務理事(いろいろな協会があるものですね。)舟貝政夫氏による「皿回しとバルーンアート」のワンコインレッスンがVECでも開講中です。これから忘年会の季節。あちこちから引っ張りだこですよ。どしどしご参加を・・・
- 〈番外〉VEC交流会の会場が8階に移りました。一段と広くなり益々華やかになります。  
やっと十大ニュースが出来ました。よくやったものです。澤村事務局長・スタッフの皆さんありがとうございました。



財団法人ベンチャーエンタープライズセンター  
理事・関西支部長 本田英行

### 「わたしの夢」 \*\*\*後編\*\*\*

会社の第二創業と位置づけた本年に、私自身も還暦を迎え新たな思いで第二のスタートを歩みはじめました。

事業活動では、以前からの夢の具現化を目指して、限りある地球の資源と環境を確実に次世代にバトンタッチする「環境関連事業」、人に安らぎを与える「美容健康関連事業」の推進に積年の技術力を活用しながら取り組んでいます。

#### 環境関連事業

- ①「水生水機」空気中の水分から安全でピュアなおいしい飲料水を生成します。
- ②「ソーラ発電・風力発電機器、LED照明」等 CO2の削減、経費削減に大きく貢献します。

#### 美容健康関連事業

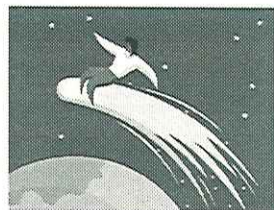
##### ①「LED照射機」

皮膚の深部まで光エネルギーを到達させ、育毛、シミ・にきび対策として有効です。

##### ②「振動マシン」

生活様式の歪からくる骨格のゆがみ(小中学生の70%)や歯の噛み合わせ不良が原因の腰痛(女子高生の70%)等の対策として有効です。

歯科とスポーツ医学・整体を連携させて健康な肉体づくりをすめその実現にパートナー企業を募って合力したいと思います。



私活動では、NPO古代遺跡研究所の活動を更に深めたいと考えています。

当研究所は、全国各地に点在する「磐座(イワクラ)」の発掘保存研究を行っています。

磐座とは古代の祭祀場で、神社の元宮と考えられています。本年9月には、当研究所主催で、イワクラサミット全国大会が六甲山で開催され多数の参加者がありました。

さらに、研究所では、「古事記」を紐解いて勉強しています。

現代日本は歴史を軽視する風潮が強く、なかでも宗教アレルギーが充満しています。

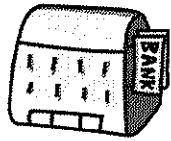
「歴史は先人が歩いた足跡」であり、「宗教(信仰心)は人としての道」と考えてはどうでしょうか?

これらの思いは「生まれる」と同時に得るものではなく、「育てられる」過程で身につけられるものです。この収束されたものが習慣になり文化になると考えます。この文化を残し子供たちに継承していかなければならないと思います。

企業家としては育てる側の責任を感じております。業績を安定させ人を育てて自己も成長し「こころ豊かな社会」の実現を目指したい。企業活動も私活動も一人の力では限界があります。一日でも早く、一つでも多く実現させる為には多くの賛同者の力が必要です。まず自社を社会に貢献できる企業に作り上げ、賛同者を募って未来に向かって活動し、社会に貢献したいと考えております。

和田金属工業株式会社  
代表取締役 和田 憲一

## 銀行よ原点へ戻れ そして貸付業務に汗をかけ 《その1》



—ベリー来航以来米国アングロサクソン・エスタブリッシュメント（以下AEとする）にふりまわされる日本—

1985年のプラザ合意以降360円を切り上げられた日本は橋本内閣の金融ビッグバンの旗振りのもと、欧米並みの金融立国を目指して来たのだが、はからずも米国金融資本が先にひっくり返って暴風雨にみまわれたがお陰で金融立国の中身がしっかり検証できたというのが今回の米国発の自爆的金融恐慌の実態ではないでしょうか。アイスランドや韓国の脆弱さをみれば強い実態経済の裏づけのない金融立国政策の危うさを証明したと言えます。

だからといって一流経済誌でも「米国流金融資本の終焉」等の見出しが踊っているがどっこいそう易々と米国のAEはその軍事覇権はもちろん世界経済の覇権も決して手放さないというのが米国研究筋の見方であり、これから米国金融資本の本当の逆襲が来ることを肝に命ずるべきなのです。

今回の金融危機で日本は金融立国の虚像をしっかりと見極めると共に、日本人本来の勤勉性を失わせるきっかけになった「貯蓄から投資」の金融政策を「投資から貯蓄」へ大きく舵を切り直すことなのです。

この米国発の金融恐慌でわかったことは①金融工学やデリバティブ取引とか何とか言って高邁な理論を振り回したが実態は身内で博打をやって、たちが悪いことに証券化という技術でその不良債権を全世界にばら撒いたということです。

竹下内閣のプラザ合意以降360円から切り上げられた日本経済は内需振興をお題目に「貯蓄から投資へ」の大本命のもと23年間様々な投資商品・投資市場が登場したが今日の米国の自爆的金融恐慌によって日本のいずれもその市場、商品の大惨敗状況を見てみると銀行、証券、VC等の投資運用のプロの連中が米国金融マンに金融工学やデリバティブ取引という言葉に攪乱され異常な利回りに酔わされ、いよいよ振り回されてきた姿がはからずも浮かび上がってきたと言うところでしょうか。というより米国金融資本の連中の方が一枚も二枚もうわ手だったと言うことです。

不動産鑑定評価の手法の一つに収益還元法というのがあるのがその還元利回りの基本が5%であり、民法の法定利率も5%であり、これは長い長い歴史の中で培われた平均利率なのである。

これを上まわる配当や利子の商品はやっぱりおかしいのである。それを歴史的に証明したのが今回の金融恐慌なのである。

私は約十年前或るベンチャー経営者がロス郊外で不動産開発事業をするのでみてほしいということで現地に飛んだのだが現地を見てびっくり。

ほんとうに西部劇にでてくる荒野そのものだったのである。流入する外人が急増してるので売れると現地マネージャがいうので開発に同意したのだが数年後、現地をみて又びっくり。

道路・緑地が整備され一見高級住宅地に生まれ変わっていたのです。当然地価も数十倍どころか百倍近く化したのである。

今から考えればこのころから米国の不動産バブルが始まっていたのであろう。

日本の不動産バブルが4年間ぐらいで住宅地、商業地が中心だったのに比べ単純計算で日本の国土の30倍近い面積でバブルが展開されたのだから如何に想像を絶するバブルだったというのが理解してもらえるとと思う。

多国籍企業という流れで製造業を海外に追い出し、金融立国という看板を掲げ、その名の下に博打ローン（別名サブプライムローンという。大まかにいえば年収200～300万円層に3000万円の不動産を売りつけおまけに1000万の消費者ローンを付けたようなもの）を開発し持ち家政策と称し売りつけ、其上、破綻するとわかっていたものだからそれを証券にして全世界の投資金融機関にばら撒いたのです。（続く）

大阪ベンチャー倶楽部（NPO、次世代経営者育成塾）代表幹事  
不動産兼経営コンサルタント 山口 孜

## ◆ 暴飲暴食は健康の敵！ <後編>

今年も残りわずかとなりました。毎年このことから、年末年始にかけて忘年会・新年会といった飲み会が増えます。お付き合いの範囲が広がれば広がるほど毎日のようにあちらの会・こちらの会とお酒を飲む場面が多くなります。



アルコールが体に入ると酔います。これは肝臓がアルコールを処理しきれず、全身にアルコールが廻ってしまうからです。肝臓が1時間に代謝処理できるアルコール量は6～9gといわれています。ビールだと大瓶1/3本、日本酒だと1/3合、ウイスキーだとダブルで1杯（60ml）が目安です。つまり、個人差はありますが、これ以下のアルコール量を1時間かけてゆっくり飲めば、酔わないということになります。酔わないのであれば、お酒を飲んでいる意味がないと思われるでしょうが、こうすると体には負担が掛かりません。

お酒を飲むと脳の縮みに拍車がかかるという研究もされています。休肝日を設けていても、生涯かけて飲むお酒の量が多い人ほど、お酒を飲まない人に比べると急速に脳が縮んでいくそうです。毎日、大量にお酒を飲んでいる人は生活習慣病だけでなく、認知症になる危険度も増してしまうということになりますね。

冬場の飲み会といえば鍋物。みんなで鍋を囲みながらワイワイとお酒を飲むと楽しいです。でも、つつい食べ過ぎてしまうのが難点。お鍋の具を食べてかなりおなか膨らんでいるところに、うどんや蕎麦を入れたり、ご飯を入れて雑炊にしたり・・・野菜や魚介類・肉の旨味がギュッと詰まった出し汁で作る雑炊は栄養満点、本当に美味しいです。そう、美味しいと分かっているから、満腹だけど最後に茶碗一杯の雑炊を食べてしまう。こんなことを繰り返していると、余分な脂肪が体にドンドン蓄積されてしまいます。

飲み会が増えるこの時期は特に体調を崩しやすいです。やはり、体にとっては腹八分目・お酒はたしなむ程度がよろしいかと・・・良いお年を。

健康管理士 新田由美子



### VECレポーターが行く!!

「あったかグッズを求めて！」



いよいよ冬本番となりました。このシーズンを温かく、賢く、エネルギーを使わずに過ごすために、心齋橋「東急ハンズ」へ目新しい商品を探しに・・・

まず目についたのが昔なつかしい「湯たんぽ」です。

店頭には隙間なくズラリと商品が・・・それもピンクやオレンジのカラーで動物をモチーフにした物や足元だけではなく肩用、手のひらサイズまで品揃えでいっぱい。買っている人はOL風の若い女性が多く、値段も3千円位までが中心で結構お手頃値段でした。

その他、足先や背中などを温めるレッグマット、ブーツ、パーソナルホットマットや外出時に使える充電式カイロなどなど、女性に受けそうなアイデア商品が目白押しでした。

この冬はせめて「湯たんぽ」などの「あったかグッズ」で“心も身体もほっかほっか（^\_^）”といきたいですね。

### ～VEC関西より～

◆ 今年も紅葉がすばらしい。美しい紅葉が観られる条件は、  
1. 大きな台風が来ないこと。2. 夏、晴れが多く暑いこと。  
3. 秋、急に冷えること。だそうだ。景気の先行きが悪いので、せめて輝く紅葉が観たいものだ。（本田）

♥ 先日、新入社員の頃の仲間たちと同好会がありました。何十年経っても変わらない??男性よりも女性たちのパワーを感じました。いくつになっても輝いていたいものです。来年もよろしくお願い致します。（藤本）

♣ 今年も1年間ご協力有難うございました。“お役に立つVEC関西支部”“魅力ある”「てんこもり」を目指し、来年もスタッフ一同がんばります。よろしく願います。（澤村）

◆ 〈交流会〉  
1月は例年どおりございません。



来年もよろしくお願い致します。

☎06-6263-0366